

【令和2年1月29日大学入試センター発表】

共通テスト最新情報

進路情報研究センター ライセンスアカデミー / 教材開発課

大学入試センターは1月29日、記述式問題の導入見送りを受けて、出題方針等を修正し発表した。

○〈教科・科目の出題方法等〉センター試験との変更点

「数学Ⅰ」「数学Ⅰ・数学A」の試験時間

センター試験 60分→共通テスト 70分

〈理由〉思考力を測る問題の重視のため。

○問題作成の基本的な考え方

「平成21年告示高等学校学習指導要領において育成することを目指す資質・能力を踏まえ、知識の理解の質を問う問題や、思考力、判断力、表現力を発揮して解くことが求められる問題を重視する。」⇒問題は難化すると推測される。

○マーク式問題の新たな出題形式

「いわゆる運動型の問題（連続する複数の問いにおいて、前問の答えとその後の問いの答えを組み合わせさせて解答させ、正答となる組合せが複数ある形式）を出題する場合がある。」

○大学への成績提供

「個人別成績データとして、得点合計、科目別得点等とする。また、参考情報として科目ごとの9段階の段階表示及び国語における大問別得点を提供する。

※大問別得点の詳細は、近代以降の文章（2問 100点）、古典—古文（1問 50点）、漢文（1問 50点）

⇒センター試験と同様に、大学では、「近代以降の文章」を試験範囲とすることができる。

○共通テストの成績提供日

私立大学に対しては、令和3年2月2日（火）から、国公立大学は令和3年2月4日（木）から行う。

ただし、国公立大学の共通テストを課す総合型選抜及び学校推薦型選抜については、令和3年2月3日（水）から行う。

○共通テスト実施後に公表する資料

センター試験において公表している正解表等に加え、以下の資料を公表する。

- ・マーク式問題の科目別得点と段階表示の換算表

| |
|---------------------------|
| 問題作成の方針（国語・英語から抜粋） |
|---------------------------|

【国語】

言語を手掛かりとしながら、文章から得られた情報を多面的・多角的な視点から解釈したり、目的や場面等に応じて文章を書いたりする力などを求める。近代以降の文章（論理的な文章、文学的な文章、実用的な文章）、古典（古文、漢文）といった題材を対象とし、言語活動の過程を重視する。問題の作成に当たっては、大問ごとに一つの題材で問題を作成するだけでなく、異なる種類や分野の文章などを組み合わせた、複数の題材による問題を含めて検討する。

【英語】

- 高等学校の学習指導要領では、外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けるようにすることを目標としていることを踏まえて、4技能のうち「読むこと」「聞くこと」の中でこれらの知識が活用できるかを評価する。したがって、発音、アクセント、語句整序などを単独で問う問題は作成しないこととする。
- 「リーディング」「リスニング」ともに、ヨーロッパ言語共通参照枠（CEFR）を参考に、各 CEFR レベルにふさわしいテキスト作成と設問設定を行うことで、A1 から B1 レベルに相当する問題を作成する。また、実際のコミュニケーションを想定した明確な目的や場面、状況の設定を重視する。
- 「リスニング」の読み上げ回数については、英語の試行調査の結果や資格・検定試験におけるリスニング試験の一般的な在り方を踏まえ、問題の数の充実を図ることによりテストの信頼性が更に向上することを目的として、1回読みを含める。
- グローバル人材の育成を目指した英語教育改革の方向性の中で高等学校学習指導要領に示す4技能のバランスの良い育成が求められていることを踏まえ、「リーディング」と「リスニング」の配点を均等とする。